

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目の や 等）から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
.理念に基づく運営	22
1.理念の共有	3
2.地域との支えあい	3
3.理念を実践するための制度の理解と活用	5
4.理念を実践するための体制	7
5.人材の育成と支援	4
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1.一人ひとりの把握	3
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成	3
3.多機能性を活かした柔軟な支援	1
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との連携	10
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1.その人らしい暮らしの支援	30
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
.サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

【取り組みの事実】

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

【取り組んでいきたい項目】

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

【取り組んでいきたい内容】

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（1から 87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（88から 100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム サンピア
（ユニット名）	サンピア2号館
所在地 （県・市町村名）	秋田県仙北郡美郷町六郷字熊野118-1
記入者名 （管理者）	伊藤 由美子
記入日	平成21年 8月 5日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1.理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「笑顔、やさしさ、ゆとりある生活を共に生きる」まごころと笑顔でやさしく接し、認知症高齢者の笑顔を引き出し、ゆっくりとした生活を共に過ごしている。又、やさしさには地域の方々との優しい交流の意味合いもある。	
2	理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を常に目に付くりビングの中央と、職員の入り口に掲げて全員が共有し取り組んでいる。	理念の実践に向けてさらに意識を高めていきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の方や家族の方に対して理念がどこまで理解されているかは疑問もあるが、普段の生活の関わりが理念に基づいたものであり取り組んでいると思う。	御家族がホームへ見えられた際、理解してもらえよう説明する。
2.地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の方と挨拶を通して地域の方と交流を深めている。お茶に招かれたり、山菜や野菜、花などをいつも持ってきていただいている。ホームの行事にご招待して親交を深めている。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りの行事には御利用者の方をお連れして参加しており、近くの高校の福祉祭りでは招待を受け参加している。	

グループホーム サンピア

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	定期的に取り組んでいる事ではないが、近隣の方 からの相談に乗ったり協力はある。		
3.理念を实践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は職員の自己評価を確認し、外部評価へ活 かしており、さらに外部評価によって改善される 内容を職員に周知するようにしている。		改善すべき所は全員で取り組む姿勢であっても、 全ての職員が同じように同じペースで理解する事 には時間が必要であり、これからも改善に向けて 進めていく。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	御利用者の生活やサービスの実際をスライドで報 告し、話し合いを通じて委員の方から率直な意見 をもらいサービス向上に活かしている。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	利用状況の届出やその他、内容の確認などで行き 来している。外部評価の結果も報告。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	研修に参加している職員もいるが、実際の関わり は管理者でその機会も少ない。		職員は権利擁護に関しての勉強会の機会があまり なく、今後OJT、OFFJTいずれかで学ぶ機会 を作っていく。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	ホームでは一部の職員は研修に参加して防止につ いての内容を活かしており、虐待のない生活に努 めている。		職員全員には周知しておらず、虐待防止関連法の 勉強の機会を設ける。

グループホーム サンピア

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>管理者は入所される際、御利用者本人、御家族様へ話を聞き、必要な説明に加え、理解・納得されるよう、十分な説明をしている。</p>	<p>契約時だけでなく、機会を設けて利用者様についての説明をしていく。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>特に機会を設けていないが、その都度話を聞くようにしており、改善が必要な事は職員全員で取り組み反映させている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月1回御家族様へ利用者様の生活状況などを書いた手紙と、金銭管理の1カ月分の決算表を添えて、春・秋には広報なども郵送している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議やホームへ来訪された際、意見や苦情をお聞きし、その内容は運営に反映している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>主任会議、職員ミーティング等行っており、出来ることから取りかかっている。</p>	<p>職員には意見を取り入れてほしいという要望もあり、どんなことを先に取り入れる必要があるか、もっと話し合いの場を持つ。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>体調変化やご家族の来訪、外出等に合わせて急な時も調整している。</p>	<p>できるだけ職員の事も考慮しながら話し合いを持っていきたい。</p>

グループホーム サンピア

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ユニットの移動に関して、御利用者へ配慮しながら少数の移動にし、管理者や主任の移動は控えるようにしている。</p>		<p>職員の意見としては移動を極力控えてほしいとの要望が出ており、移動の意義と利用者様へのダメージ軽減の双方について話し合いを持つ。</p>
<p>5.人材の育成と支援</p>			
<p>19 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>OJT、OFJT、各研修に取り組んでいる。</p>		<p>社会福祉保健、人材センターの研修、グループホーム連絡会、及び各事業所で開催されている研修に参加。弊社が行っている研修も平均して年6回程ある。</p>
<p>20 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会の研修などを通じ相互訪問等行っている。その中でお互いの良い所など話し合い質の向上につなげている。</p>		
<p>21 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>管理者はストレス軽減の取り組みをしている。例えば【仕事に対する意見を聞く】【食事に誘う】【要望ある環境対応】など。しかし個人的に違うので全ての職員が満足ではない。</p>		<p>職員のストレスも何が原因なのか分からない所もあり、又年齢によっても差が大きく、年代別で話を聞く機会を設ける</p>
<p>22 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>勤めている年数による課題別研修やその職員に適している仕事を頼んでいる。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていることを本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談を受けた時点から利用までの間、本人の話をよく聞く機会を作り、相手の思いや不安などを受け止め対応している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の辛かった事や不安、心配な事に傾聴し受け止めている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人や家族とその方たちの支援者も含めて困っている事や今一番必要なサービスの検討を早急に行っている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>環境やペース配分などを効力しながら徐々に慣れてもらうように雰囲気作りに工夫している。</p>	
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>御利用者の能力、体力、経験に応じて教え頂いたり、協力してもらい、又、会話を大事にし喜怒哀楽を共に支え合っている。</p>	

グループホーム サンピア

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御利用者に対してその家族の方には何らかの協力をしていただいている。例えば遠方から来られた方には一緒に泊まってもらうなど。		家族の方も忙しい方が多く、かかわりが薄く、そのためどんな方法がとれるかも少し工夫していきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時、家族の方との会話を含め近状報告をしているが、管理者や主任がその席にいない場合、報告されない時もある。		いつ、誰が来られても全ての職員が報告したり安心材料の提供が出来るようにしていく。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御利用者の方が近所の方だと散歩やドライブなどのとき馴染みの支援ができるが、遠方の方にはできない場合もあり、その時はじっくりと話を聞いて共有したい。		だいたいの計画でも立てながら遠方の方へも自宅や自宅の近隣など出かける機会を作っていく。
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う方同士が同じテーブルに座ったり、職員の心がけで孤立のない暮らしを支援出来ている。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	大切にしている。入院された後や、死亡された後も関係が続いている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>思いを言葉にする方や「何もない」と言われる方、それぞれ心に秘めたものは皆さんが持っていると思われる為、その思いに応えられる努力はしたいと思う。</p>	<p>生まれ育った場所、暮らしぶり、携わってきた仕事など、その方の生活歴が認知症発症後には大きな影響がある為、しっかりと把握しながら思いを受け止められる人になっていくよう努力したい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>それぞれの人生ドラマがあるように、御利用者の方も同じで、子供のころや若い頃の難儀した事を思い出され語ってくれるのでそんな時は共有し合ってゆっくりと話につき合っている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>御利用者の様子は常に注意しながらいつもと違うことはないか見守っている。又、一日の過ごし方もそれぞれ把握するように気を付けている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>全員でカンファレンスを行い、計画に沿って実行されているか、又、評価を行ってどうだったか、話し合いをしている。その他担当者会議や必要に応じては各関係者と話し合う機会もとっている。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>A D Lの変化など見直しが必要な時は、関係者と話し合い、並行しながらカンファレンスを行い計画を作成している。</p>	

グループホーム サンピア

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践を個人記録に記入し、結果や気づきは情報ノートに記録し共有している。計画の見直しに活かしている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外食、宿泊、急な泊まり（ホームへ）等、柔軟に支援している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	必要に応じて協力をして頂いている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要な方、必要な時は話し合いや、サービス等の利用もお願いしたこともある。例えば寝たきりの方への入浴サービス。		今後も必要に応じて連携をとっていく。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は協働している事は内外、地域包括支援センターとの行き来はある。		

グループホーム サンピア

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターをはじめとして、御利用者の方が長い間かかってきたかかりつけ医や、薬局、歯科医との信頼関係が出来ている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ホームドクターは認知症専門ではないが、必要に応じては専門医への受診もしている。		認知症についての質問が職員だれでも出来るような体制を作っていきたい。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホーム内の看護師と訪問看護師との連携がとれており、また、近隣のかかりつけ医の看護師さんとも相談しながら支援している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	出来ている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	出来ているが、全員の職員までには周知出来ない。		全職員が方針を共有できるように話し合い場を作る。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	その都度話し合いを行っているが、事業所でどんなことが出来るのか、又、どんな状態になったらホームでは無理なのか、何が無理なのか具体的な見直しができている。		1か月や2カ月に一度の検討会を行い、確実な事を決めておく必要がある。

グループホーム サンピア

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	努めている。明るい所や静かな場所などで、できるだけ今までの環境に近い工夫や、部屋の中においても、今まで置いてあったもの、飾ってあったもの等、できれば位置なども考慮してダメージを最小限に抑えるよう情報交換をしっかりと行っている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに見合った言葉掛けに気を配っている。又、記録に残す言葉も俗語や職業語などは使わないようにしている。		職員は意識して御利用者を守る為に記録の書き方等の研修を予定する。メモや記録の保管や処理を適切に行う。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	外出や美容院、買い物等、希望を聞き、出来る所は自己決定を尊重し支援している。服を選ぶ機会を作ったり、おやつ時間の乃物の洗濯方式にして決めてもらうことある。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大事にし状態を見て食事、睡眠など支援している。		職員側のペースで進めている時もあるので意識して御利用者ペースにするよう努めていきたい。。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	定期的に床屋さんが訪問してくれたり、清潔かつおしゃれを支援している。近くの美容院へ出かけている。		

グループホーム サンピア

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	材料の下ごしらえや刻むことの関わり、料理が出来るときのおいを感じてもらったりしている。テーブル拭きや茶碗拭きなど御利用者の力に応じて参加されている。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	各人の嗜好を把握し、御利用者の体調に応じて提供している。		日常的に提供している方や、非日常であったり駿河楽しみにされていることを大事にし対応していきたい。
56 気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	排泄のサインを見逃さないように気を配り、スタッフ間でも情報を交換している。さりげなく声掛けし、誘導している。		朝食後の排泄を支援していく。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望を伺い、体調に合わせて入浴してもらっている。支援している時はコミュニケーションが取りやすいので楽しんでもらっている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中はいろいろな作業を手伝ってもらったり、レクリエーションなどで体や頭		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	農作業の手伝い、見学（出来る能力に応じて）花の水やり、ホーム内の掃除、洗濯に関する手伝い、散歩、買い物、会話の時間を作る等行っている。		身体的に難儀な方の支援方法を話し合って実行していく。

グループホーム サンピア

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には財布を持って頂いている。又、お札をたくさん持っていないと心配だという利用者に対して家族の方とも相談し、千円札で10枚程持って頂くようにしている（今までは一万円札で3枚）		
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個別に近くの公園や、農業科学館（断線し）、御利用者時自宅等出かけている。		その方の状態はもちろん、職員のやりくり（受診、研修等）を調整しながらの実行になり、御利用者の要望をいつも全面的に受け入れるのは難しく、課題である。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	機会を設けているが、だんだんと身体的にも無理も生じてきている現実もある。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族からの電話を取り継いだり、電話番号を押すところまで支援している。手紙を書いて頂き御家族へ郵送や渡す支援を行っている。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも来て頂き、お部屋やホールで過ごして頂いたり、そのための整理や掃除には気を付けている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は基本的にはしない方針で取り組んでいるが、どうしても必要な場合は家族との協議の上で理解を求めている。しかし職員全員が法的に理解しているとは言えない。		勉強会をやってほしいとの職員からの要望があり、実行の計画を立てる（今年度中）

グループホーム サンピア

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	玄関に関しては日中（7時～20時）は鍵はかけていない（御利用者を見守りして対応）。居室に関しては御利用者の要望により鍵を取り付けているが、内・外からの開閉が可能。		
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員の声掛けにより連携が取れて御利用者の所在に気を配っている。		畑へ行かれる御利用者に対しては20分～30分ごとの確認や、声掛けを行っている。一人で玄関を出て行かれる方にはさりげない見守りをし、次の行動に移す。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全体においては風呂場や台所の洗剤・包丁など気をつけている。個人の部屋ではその方の能力に応じて、果物ナイフ・ハサミ・カッター・飲料水等対応している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットで検討会を開き、事故防止に取り組んでいるが、事故ゼロとはならない。		職員からの要望で事故防止のための勉強会をしてほしいとの声があり、計画していきたい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	定期的に勉強会や実践、訓練を消防署へ依頼し行っているが、全ての職員が急変時、確実に対応できる態勢ではない。		実践の回数を増やし、自信をつけるようにしていく。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	春・秋の避難訓練を通じて避難の方法は身につけているが、完璧とは言えない。又、近所の方には協力して頂いている。		

グループホーム サンピア

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとりの状態や症状に対して、生活の中で起こりうる可能性としての説明をさせていただき、御理解を頂いている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状態を知る為に健康チェックをしており、急な変化や異変を早めに気付く事が出来る。気付いた時は、速やかに情報を共有し、看護師に連絡、対応している。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	出来ているが、全員の職員までには周知出来ない。全職員となると不十分な為、確認作業をしている。		8月26日にかかりつけ薬局の薬剤師の先生を講師に招いて今年度の研修を開催する予定。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	乳製品や食物繊維の多い食品等の利用、提供に努めている。処方薬も欠かすことが出来ないが、できるだけ便秘にならないよう対策をとっている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、全ての御利用に対してのケアは出来ないが、一日の朝・夕は自分で出来ない方でも支援させて頂いている。		毎食後無理な方には、うがいやお茶で対応させていただく。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や栄養バランスを見るために食事バランスガイドをチェックしている。水分量は足りない時もあり、嗜好品の把握や声掛けて対応している。		水分の確保は一日を通して支援している。

グループホーム サンピア

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	必要時のグローブの使用。トイレ、床、手すり、椅子の取っ手を塩素系の洗剤を使っての掃除。年間を通して実施している。		
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具（器具・食器）類の除菌、煮沸消毒を行っている。食材もなるべく地場産、国産を使うように気を付けている（米は仙北米）		
<p>2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るく親しみやすいように玄関周りには花を植えており、玄関も家庭的雰囲気になっている。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広く、つづき間で和室をしつらえ、東向きで明るく居心地がいい。空調設備の他、トイレや浴槽には換気扇をう設け、においや湿気の対策をしている。季節の花や写真を飾って季節感も感じてもらえるように配慮されている。		歩行や避難時に妨げとならないよう配慮もしている。
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少し広い空間への休憩場所を使ったり、ソファ等々の利用をされている。		

グループホーム サンピア

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	状態も考慮しながら、家で使っていた小物など利 用していただいたり、必要以上に物を置かないよ うにして、居心地のよい居室を作るように工夫し ている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	各部屋に湿温度計を設置してあり、こまめに温度 管理をしている。空調の点検もして、においなど が気にならないよう配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	手すりの設置、下駄箱脇には椅子を置いて靴を履 いたり脱いだりするときを使用。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	言葉使いや支援方法について、一人ひとりの持っ ている力や能力を把握して対応している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	ひなたぼっこやお茶の時間に利用しているが、活 用しきれていない。		外出できない時や、天候が良い日にベランダで外 の景色を見たり、風に当たったり、気分転換をは かりたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

.サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

グループホーム サンピア

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症になっても安心して暮らせる街づくりを目指して、サポーター養成講座の講師を引き受けたり、近所の方への相談役(まだ少数ですが)となってきたグループホームサンピアが地域の認知症介護の拠点となれるよう今後も努力していきたいと思っております。